



族  
♀

まざまな名手とであって腕を上げたばかりか、単に楽器演奏だけにとどまらず作曲やアレンジにまで手を広げ、その才能を恣(ほしいまま)にしている…ね、充分「異色」でしょ？さらに、「異色」の理由その2。上記でのべた「関係者」のほとんどが、BSC(プラス・サウンド・クリエイション)のトランペットを愛用している楽器族であること。その影響で彼女もBSCの魅力を知ったのだ。そして、「異色」である最大の理由は、彼女がそのスレンダーなルックスにまったく似合わない、ごついトランペットを愛用している、ということ。美女と野獣、という所以(ゆえん)である。「そうおっしゃいますけど(苦笑)、慣れてしまえばそんなに重く感じないんですよ。持ってみます？」

…あれ？確かに、見た目ほど重く感じないのはなぜ？

「さあ、私が設計したわけじゃないからわからないんですけど(笑)単に重くする、というのが目的ではなくて、ある音色を求めて設計していった結果こういうスタイルになった…と、設計の加藤朋海(ともみ)さんはおっしゃっていました」

そう、このヘヴィタイプのトランペット「ニューオリズ」は、BSCの総帥である加藤朋海氏の最新作。オバマ大統領の就任パーティでもBSCで名演を聴かせたウイントン・マルサリスの「音楽」をイメージして、彼自身がハンドメイドでつくりあげた名器なのである。強烈な印象を与える

錘(おもり)状の部分は、音響効果を考えて最適と思われる位置に、最適な重量で装着されたもの。また、リードパイプ部分はいわゆる「ダブルチューブ」状態になっている。しかもハンドメイドだから、その仕上がりは一本一本異なる。本誌前号で取材した折に、そのあまりの美しさにほれ込み(…あ、いや、楽器の美しさに、です。他意はありません!)ふたたびご登場いただいた…という次第。その、虹色に輝く美しい肌(楽器の、です)をじっくりとご覧ください。この「虹色」は、金属表面を特殊加工した結果うまれたもの。なにかを塗ったり、異種金属をかぶせた(メッキ)ものではなく、素材そのものが硬く変質した印なのである。

さつきかほりさんとBSC「ニューオリズ」。美しいブローは偶然の産物。

さつきかほり:元日本航空(JAL)国際線客室乗務員。1998年、トランペット奏者ウイントンマルサリス氏に出会ったのをきっかけにトランペットを始める。トランペットを井田明彦、ロルフ・スメドウィグ、マーカス・プリンタップの各氏に師事。パーカッションを北野圭威氏に師事。これまでにシドニー、ロサンゼルス、ウィーン等、海外演奏旅行の経験も多く、外国人アーティストとの交流も深い。アンサンブルや吹奏楽曲の編曲も数多く手掛ける。

同じ「ニューオリズ」でも仕上がる瞬間の偶然の魔法?によってこれだけ色が変わる。まるで「宝石」である

## 美女と野獣の真相

### 美女と野獣の幸せな風景

女流トランペッターが珍しくなくなった平成の現在といえども、さつきかほりさんは、きわめて異色のトランペッターだ。理由その1は、経歴。彼女は日本を代表する航空会社で第一線のキャビンアテンダントとして活躍していたのだ。つまり、いわゆる吹奏楽経験などは皆無。トランペットを始めたきっかけは、かの有名なトランペッター、ウイントン・マルサリスに出会ったこと。その後、マーカス・プリンタップをはじめさ





## 美女と野獣の、その後

出したい音色が  
自在に出せる

「これまで使っていた楽器と一番違

うのは、出したい音色が自在に出せ  
る、というところなんです」

かほりさんは、そう微笑む。手に  
しているヘヴィタイプのBSCニュー

# Best Sound Club へようこそ

美女と野獣 (p 21 参照) なんていっちゃってごめんなさい! 本誌前号でご紹介したさつきかほりさんは、超重量級のニューモデル「ニューオリンズ」にぞっこん。すっかり惚れこんだ彼女は、現在愛器とともにさまざまなところを旅しているのです…

オリンズを評しての言葉だ。しかしこんなに重い楽器をそんなに細い腕が「自在に扱えるものなんだろうか?」

「これで野球やろうってわけじゃありませんからね (苦笑)。きちんと考えられた重量配分がなされているせいか、慣れてくれば重さは感じないし、むしろその重さに助けられる感じで…ととても吹きやすいんです」

女性にも吹きやすいヘヴィタイプってことですか?

「人にもよると思うのですが、楽器に頼らず自分で抵抗感をつくれる人と、それが苦手なタイプの人がいると思うんです。私は後者のタイプなんで、軽い楽器だと音楽が求めてくる『音色』を響かせることができないんです。このニューオリンズだと、その抵抗感を楽器がうまく作って

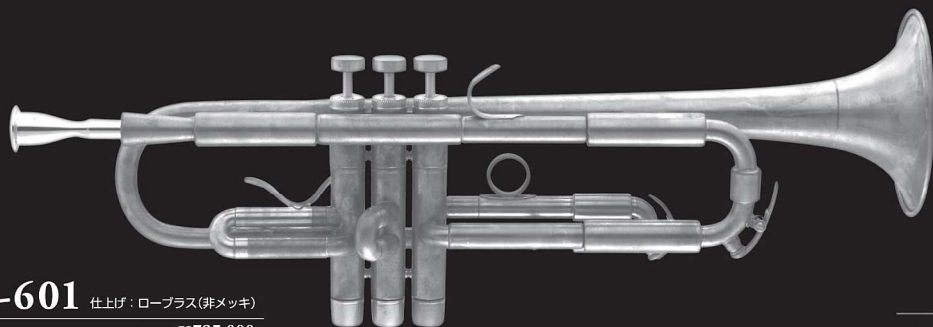
れるから、自分はその抵抗感に乗って吹けばいい…」

単にハイトーンが得意、とか、指を早く動かせるのが得意、というタイプの奏者なら、求める音色はそれほど多彩である必要はないのかもしれない。しかし、かほりさんは楽器がうまいのを自慢したい…というタイプではなく、もちろん珍しい楽器を所持することに満足を感じる楽器マニアとも違う。敬愛するウィントン・マルサリス同様、素晴らしい音楽を作り上げたいだけ、というタイプなのだ。そんな彼女は、このニューオリンズのお披露目として、とあるファミリーコンサートに参加した。ソプラノ歌手やピアニストと一緒にコンサートでは、独奏で《ラ・マンチャの男》を、そしてソプラノとともにバッハのカンタータ第78番《イエスよ、わが魂を》を演奏。彼女が口にしていた「自在に変化する音色」の魅力を存分に堪能することができた。堂々とハリのある音色で歌い上げる《ラ・マンチャ…》と、ソプラノのしなやかな声に寄り添うような演奏が要求されるバッハ、それぞれにあわせた魅力的な「ニューオリンズ」の音色が、惜しげもなくホールに響き渡った。さらに、彼女の魅力が全開したのはアンコールの一曲…というか、春の名曲メドレー。滝廉太郎の《花》、そして童謡《春の小川》(作曲は岡野貞一)をモチーフに、自在にさまざまな楽曲の楽想をちりばめた「かほり」テイスト満開のアレンジと、ニューオリンズのしなやかな表現力が、一足早い「春」を感じさせてくれたので



- TR-501G "WM" ¥703,500 <ケース付> 仕上げ: シルク24K金メッキ
- TR-303S "シンフォニー" ¥417,900 <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-206S "オールラウンド" ¥302,400 <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-106S "ニューヨーク" ¥260,400 <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-105S "ミレニアム" ¥207,900 <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-C01S "アルマンド" <C管> ¥448,350 <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ

ヨーロッパのハンドメイドが培った完成度



TR-601 仕上げ: ローブラス(非メッキ)  
"ニューオリンズ" ¥735,000  
<セミハードケース付>

※マウスピースは付属しておりません

ある。

### 「ニューオリンズ」のふるさと ルクセンブルグでも…

そして、返す刀で? 旅立ったのは「ニューオリンズ」のふるさとでもあるルクセンブルグ。ヨーロッパの小京都 (…なんて誰も言わないかもしれないけれど、ヨーロッパ全土で十本の指に数えられる観光地であるのは間違いない)ルクセンブルグは「ニューオリンズ」をうみだした加藤朋海氏の工房がスタートした記念すべき地点。そして現在のメインの工房は、そこから川一本を隔てたドイツ

ドイツにて。ヘラウ!の掛け声もたからかに盛り上がる「ローゼンモンターク」(かほりさん撮影)



ルクセンブルグにて。ギイ・コンター教授と

側に移行している。

「そういうわけで、加藤さんははなにかあると二か国をいったりきたりするんですね (笑)。とてもきれいな街でしたけれど、ほかにもローマの遺跡をそのまま残した街を観光したり、また、古い教会で本格的なミサに参加したり…」

初めて訪れたルクセンブルグ & ドイツ二か国をまたいだ楽しい一週間。現地の音楽大学で同じBSCの「シンフォニー」を愛用しているギイ・コンター教授のもとでのレッスン、加藤氏のご家族とともに過ごした時間など、忘れられない思い出が生まれ

ドイツの工房にて『ニューオリンズ』(右から二本目)を含む新作の数々



ルクセンブルグとドイツを隔てるモーゼル河を見下ろして。加藤氏の奥方エディータさんとともに



た。「コンター先生には、呼吸の大切さを教わりました。楽器演奏で大事なものは、なによりも呼吸だ、と。それが7割。あとは唇と舌…だけど、いい音を鳴らすためには呼吸以外のことはほとんど気にしなくてもいい、と言われたのが印象的でしたね」

現地でもその腕前を披露する機会があった。

「楽譜なんかなかったんですけどね (笑)現地のお祭りで吹いちゃいました。『ローゼンモンターク』(注:直訳すると「バラの月曜日」。しかし真の意味は「断食前のどんちゃん騒ぎ」。かつては断食が水曜日から行われたことからそう呼ばれるようになったらしい)というお祭りに参加させてもらったのは、とっても楽しい思い出になりましたね…」

ヘラウ!という掛け声をかけて大いに盛り上がるこのお祭りで、ドイツの民謡を吹いたかほりさん。楽譜を左手で持って吹く、ということはさすがに「ニューオリンズ」ではできなかったけれど、耳のいいかほりさんは聞こえるままに音を合わせて楽しく演奏できた、という。そして帰

国後は、休む間もなく大阪から姫路をめぐるツアーへ。姫路では地元吹奏楽団とコラボを楽しんだ。ここでも「ニューオリンズ」は注目的。そりゃそうでしょう、この組み合わせ、誰だって「どんな音がするんだろう」って、興味を惹くもんね。 **花**



川崎市にて。宮前ウィンドオーケストラとともに(2011みやまえ新春コンサートより)。歌劇「魔笛」より(モNSTASのARIA)を「ニューオリンズ」で吹いているかほりさん



The Saxophones Produced by  
**Kenny G.**



シルバー  
ダークゴールドラッカー  
ブラックニッケルwithシルバーキー

Soprano

¥178,500 ~  
¥210,000

Alto

¥147,000 ~  
¥168,000

Tenor

¥168,000 ~  
¥189,000



日本総輸入元 株式会社 **セレクト インターナショナル**

〒272-0836 市川市 北国分 1-8-2  
e-mail : info@select-inter.com

TEL : 047-374-0792 FAX : 047-372-2704  
URL : http://www.select-inter.com